

令和8年3月13日付茨城新聞に本校の記事が掲載されました

命の大切さ訴え

ボランティアバス15年運行

旅行会社社長が講演

太田一高・付属中

東日本大震災15年

県立太田一高・付属中
(常陸太田市栄町、谷津勉
校長)は9日、東日本大震災

後、被災地へのボランティアバスを運行してきた水戸市の旅行会社「石塚観光」の綿引薫社長を講師に招き、命の講演会を開いた。付属中1年生から高校2年生ま

での約500人が、被災当時の様子や現状を知り、命の大切さや将来の行動などについて考えた。

震災直後の2011年4月から15年間、宮城県に災害復興ボランティアバスを走らせ続ける。400回を超え、ボランティア延べ3万2000人以上を運んでいるという。

綿引さんは地震発生時や津波の押し寄せる様子やボランティアの活動などを映像で紹介。復興ボランティアバスの運行を決意させた動機や被災地の街の様子、関わった人たちの思い、ボランティアに参加した高校生の作文などを話した。

綿引さんは「生きたいと思っても生きられなかった人たちの大切な一日を生きていることを忘れないでほしい。自分の命はもちろん、他人の命も等しく大切。未来の命を守っていくのは皆さんです。未来を守り続けてほしい」と訴えた。

生徒会長の小沢楓さん(17)は「講演の中のできる

時にできる人ができること
をすることができるといふ言葉で心が温
かくなった。どんなに小さなことでも困っている人に

ボランティアバスの15年間の経験を
話す綿引薫さん 常陸太田市栄町



手を差し伸べたい」と話した。
(飯田勉)